

《ワナゲ》

・ゴム製リングを的棒に投げ合って、ポイントを競い合うゲームです。

写真



起源

- ・紀元前 200 年頃、ヨーロッパの馬蹄投げが起源とされている。
- ・中国から日本へ仏教とともに紹介され、日本で現在のような完全な円形となった。
- ・1967 年、日本ワナゲ協会が発足し、幾多のルール改正を経て、2002 年 4 月から統一公式ルールで全国大会が開催された。『輪で 話を 和に』が精神である。

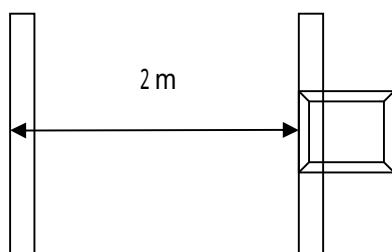
人数

- ・単独投輪方式 = 1 チーム 1 人 ~ 9 人 × チーム数 (不特定多数で実施可能)
- ・交互投輪方式 = 1 チーム 1 人 ~ 5 人 × 2 チーム

場所

投輪ライン

ワナゲ台固定ライン



- ・平坦な場所に台を設置し、左図のように 2 本のラインを引く。公式ルールでは 2m ラインより投輪するが、身体条件や技術により距離を変更してもかまわない。
- ・平坦な場所であれば、屋内外を問わない。

進め方

【単独投輪方式】

- ・ジャンケンで投輪するチームの順番を決める。
- ・最初のチームが 9 本 (赤、青、黄) の全部のリングを続けて投輪する。
- ・次のチームが得点を計算し、リングをとり、投輪するチームとなる。以後これを繰り返す。

【交互投輪方式】

- ・ジャンケンで先攻と後攻を決め、先攻チームが赤リング (4 本)、後攻チームが黄リング (4 本) を持つ。
- ・先攻と後攻が交互に 1 本ずつ合計 8 本のリングを投げる。
- ・両チームで得点を計算し、負けているチームが青リング (1 本 = アンカーリング) を持ち、投げる。
- ・次のセットは、前セットで負けたほうが後攻となる。(負け後攻の原則)
- ・4 本ずつ投げた時点、アンカーリングを投げた時点で同点になった場合は、そのセットは引き分けとなり、次のセットに移行する。(和の原則)
- ・通常は 1 試合に 3 セット行うが、柔軟に設定してかまわない。

勝敗の決め方

- ・得点棒に入った点数の合計が総得点となる。
- ・縦横斜いずれか 1 列に入った場合、合計は 15 点だが、『1 期の原則』により 2 倍の得点が与えられ、30 点となる。最高は、8 列で 9 本全ての棒にリングが入った状態で、得点は計算上 240 点 (8 列 × 15 点 × 2 倍) になるが、これを「上がり」(パーフェクト) と呼び、特別に 60 点が与えられ、300 点となる。
- ・単独投輪方式では、チームごとの得点合計数の多いチームが勝者となる。
- ・交互投輪方式では、取ったセット数の多いチームが勝者となる。

その他

- ・リングは、どのように持ってもかまわないが、必ず片手で投げる。
- ・リングを投げるとき、両足は地面に接していなければならない。
- ・先に投輪したリングが、完全に静止してから次のリングを投げる。
- ・必ず投輪ラインの後方から投げ、リングが手から離れて台に落ちるまで、ラインを踏んだり超えたりしてはならない。